

「地域コーディネーターの活動の充実のために」**奈良県学校コミュニティ・コーディネーター 有田 佐****1. はじめに****2. 「地域とともにある学校づくり」県内の取組の現状**

※取組の深化・充実→県内各地で実に多様な取組が展開されている。

(1) 変化の様相

- ① 組織化が進む
- ② コーディネーターの配置
- ③ 様々な団体との多様な連携
- ④ 普及啓発の進展と理念理解の浸透

(2) 変化の印象

- ①協力・支援から学校教育内容の更なる充実に向け積極活用へ
- ②「協力・支援」から子供や学校の実態を踏まえた「課題の共有」へ
「連携の継続」から「共有と協働」へ。

3. 特徴的な取組として

- ①異年齢集団との交流
- ②地域の歴史・文化に根差す、子供たちのスピリチュアル体験
- ③教員とボランティアによる協働の取組
- ④子供の安心を育む関係づくり→単なる支援から、人間的交流・ふれあいの深まりへ

4. 悩み・問題点・克服すべき課題等

- ①人材不足、スタッフの固定化・高齢化
- ②頑張っているが、誰か・どこかが疲弊 ※コーディネート機能不全
- ③学校の敷居の高さ・地域との間にある垣根

5. 敷居の高さの背景にあるものとして

- ①今学校現場では
 - ・いじめ、不登校、非行、校内暴力、学級崩壊、学業不振、学力低下、活字離れ、他

- ・地域崩壊、少子高齢化、経済格差、貧困家庭、機能不全家族、引きこもり、等々
- ・「世界一多忙」といわれる日本の教育現場。精神疾患による退職、休職教員数は高水準を維持。

②学校文化としての閉鎖性

6. 克服に向けて大事にしたい視点

①「もう一つの好循環」→学校とボランティアの信頼と協働の好循環

→子供たちの現実から成長を実感すること。「来てよかった」「来てもらってよかった」の双方の実感が相互の信頼を生む。

②課題の共有

→互いの実感を通して育まれる「信頼と協働」の好循環の中での取組の積み重ねこそが、子供一人一人を見据えての、「願いの共有」であり、「課題の共有」は自ずと生まれてくる。

7. 今後の具体的課題として

①継続した普及啓発努力

②コーディネート機能の充実

③情報の共有とネットワーク

④組織化・推進体制づくり

⑤地域の実態・地方創生の観点をふまえた取組の方向性

※国の「学校を核とした地域力強化プラン」

「学校を核として地域住民の参画や地域の特色を生かした事業を展開することで、まち全体で地域の将来を担う子供たちを育成するとともに、地方創生の実現を図る。」

- ・地方創生の実現を視野に
- ・子供の状況に配慮した支援の充実
- ・コーディネート機能の強化

→「地域コーディネーターの配置促進及び機能強化、地域コーディネーター同士のネットワークづくり、総括コーディネーターの配置」

8. おわりに

※ある大学の機関紙 [グローバル社会に必要な力とは]

グローバルリーダーに必要なもの

→「価値観が異なる人と相互理解を育むことができる能力と魅力があって、信頼される人間力」